



# 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月31日

上場取引所 東大

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 若林 純  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣  
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日 配当支払開始予定日 平成24年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

TEL 06-6365-8120  
 平成24年11月30日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	236,185	△0.1	2,162	△40.9	2,762	△28.1	3,004	—
24年3月期第2四半期	236,382	6.7	3,660	△23.1	3,840	△27.6	△1,237	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 △418百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 88百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	15.47	15.42
24年3月期第2四半期	△6.60	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	327,340	167,219	50.6
24年3月期	335,230	168,854	49.9

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 165,662百万円 24年3月期 167,330百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	6.25	—	6.25	12.50
25年3月期	—	6.25	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.25	12.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	535,000	5.8	11,000	10.5	11,500	11.5	6,200	486.5	31.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	206,740,777 株	24年3月期	206,740,777 株
25年3月期2Q	12,576,888 株	24年3月期	12,571,631 株
25年3月期2Q	194,167,119 株	24年3月期2Q	187,509,999 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報等 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループにおいて主力の阪急うめだ本店が、本年11月のグランドオープンに向けた最終工事の段階に入ったことにより、売場面積は工事期間中最小となることから、連結業績につきましては、当初から厳しい状況を想定しておりました。

このため、当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）におきましては、連結営業利益・経常利益はともに減益となりましたが、阪急うめだ本店の売上高の減収幅が想定内で収まったことにより、当初見込みを上回りました。

なお、特別損益につきましては、阪急うめだ本店の工事に伴う費用などを特別損失に計上する一方で、モザイク銀座阪急の退店に伴う受取補償金を特別利益に計上した結果、四半期純利益は、4,241百万円増加し、3,004百万円になりました。

《連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	236,185	99.9
営業利益	2,162	59.1
経常利益	2,762	71.9
四半期純利益	3,004	—

【百貨店事業】

阪急うめだ本店におきましては、本年10月25日の二期棟先行オープンおよび11月21日のグランドオープンに向けた最終工事による既存売場の改装・移設により、一期棟の売場面積は期中平均で約19,000㎡と、前年同時期に比べ約7割に減少いたしました。しかしながら、当社顧客から支持の高い婦人服や服飾雑貨などの売上が想定以上で推移した結果、阪急うめだ本店の売上高前期比は84.6%となり、売場面積減少の影響を最小限に抑えることができました。また、阪急メンズ大阪の売上高前期比も102.4%と増収となった結果、阪急メンズ大阪を含む阪急本店の売上高は、51,185百万円、売上高前期比は87.6%となりました。

また、阪神梅田本店では、婦人服や服飾雑貨などが好調に推移するとともに、モチベーション商戦や催事などの集客施策が奏功した結果、本年5月より5ヶ月連続で前年実績を上回り、売上高は44,699百万円、売上高前期比は101.7%となりました。これらの結果、両本店をあわせた売上高は95,884百万円となり、大阪・梅田エリアにおいて、引き続き圧倒的なシェアを維持しております。

また、支店におきましても、昨年10月に全面改装した阪急メンズ東京や西宮阪急、あまがさき阪神などが売上を伸ばし、本年3月に閉店した神戸阪急の実績を除く支店既存ベースでの売上高前期比は101.4%となりました。

百貨店事業の業績は、阪急うめだ本店の売場面積減少の影響で、以下の通りとなりました。

《百貨店事業の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	166,508	94.6
営業利益	680	34.8

【スーパーマーケット事業】

食品スーパー「阪急オアシス」を運営する株式会社阪食では、本年度も引き続きスクラップアンドビルドと既存店の収益力強化を進めました。具体的には、本年9月に阪急オアシス西田辺店（大阪市阿倍野区）を出店する一方で、阪急ファミリーストア上六店（大阪市天王寺区）など2店を閉鎖いたしました。

また、阪急オアシス御影店など5店を改装し、改装店舗が堅調に推移した結果、競合の激化や価格競争など厳しい状況が続く中、既存店ベースの売上高前期比は、97.8%となりました。昨年度に新規開業した2店舗も順調に推移した結果、株式会社阪食の業績は増収増益となりました。

さらに、製造子会社では生産性の向上を図ったことにより、スーパーマーケット事業の業績は以下の通りとなりました。

《スーパーマーケット事業の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	45,758	100.9
営業利益	701	103.0

【PM（プロパティマネジメント）事業】

JR大井町駅前において「阪急大井町ガーデン」を運営する株式会社大井開発では、ビジネスホテル「アワーズイン阪急」の客室稼働率が前年同期間と比べて大幅に向上し、業績は好調に推移いたしました。一方、商業施設を管理運営する株式会社阪急商業開発では、モザイクモール港北の大規模改装に伴う工事の影響もあり減益となりましたが、内装施工を行う株式会社阪急製作所が、既存顧客からの受注が堅調に推移するとともに新規顧客の開拓も進み、営業利益が大幅に増加いたしました。

これらの結果、PM事業の業績は以下の通りとなりました。

《PM（プロパティマネジメント）事業の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	6,475	103.0
営業利益	819	102.5

【その他事業】

その他事業におきましては、昨年9月に株式会社家族亭を子会社化したことにより大幅な増収となりましたが、その一方で、昨年10月より首都圏で宅配事業を開始したことによる経費の増加や、持株会社であるエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社において、子会社からのグループ運営手数料などが減少したことから、その他事業の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	17,442	200.8
営業利益	387	49.3

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は327,340百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,889百万円減少しました。これは、阪急うめだ本店のグランドオープンに向けた工事に伴い建設仮勘定が5,536百万円増加した一方で、建物及び構築物が2,936百万円減少したこと、また、季節要因により受取手形及び売掛金が1,625百万円減少したほか、株式含み益の減少により投資有価証券が4,839百万円減少したこと、モザイク銀座阪急の退店等に伴い差入保証金が1,222百万円減少したことなどによるものです。

負債合計は160,121百万円となり、前連結会計年度末から6,253百万円減少しました。これは、季節要因により買掛金が3,689百万円減少したほか、繰延税金負債が2,090百万円減少したことなどによるものです。

また、純資産は167,219百万円と前連結会計年度末から1,635百万円減少しました。これは主に、利益剰余金が1,790百万円増加する一方、株式含み益の減少によりその他有価証券評価差額金が3,455百万円減少したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は50.6%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期決算の結果を踏まえ、通期業績予想については、売上高を535,000百万円に修正いたします。なお、営業利益、経常利益、当期純利益については、本年7月26日の第1四半期決算発表時の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,823	17,809
受取手形及び売掛金	19,979	18,353
有価証券	206	106
商品及び製品	14,369	14,109
仕掛品	122	224
原材料及び貯蔵品	967	712
繰延税金資産	4,849	3,694
未収入金	2,545	2,220
その他	2,486	2,662
貸倒引当金	△42	△57
流動資産合計	63,307	59,834
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,406	59,469
機械装置及び運搬具（純額）	1,987	1,979
土地	35,324	35,319
建設仮勘定	3,708	9,244
その他（純額）	5,680	5,199
有形固定資産合計	109,106	111,212
無形固定資産		
のれん	17,107	16,623
その他	8,189	7,540
無形固定資産合計	25,297	24,164
投資その他の資産		
投資有価証券	64,300	59,461
長期貸付金	2,607	2,551
差入保証金	57,372	56,150
繰延税金資産	9,575	10,071
その他	3,790	4,038
貸倒引当金	△127	△143
投資その他の資産合計	137,518	132,129
固定資産合計	271,922	267,506
資産合計	335,230	327,340

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	32,444	28,754
1年内償還予定の社債	35	35
短期借入金	40	5
1年内返済予定の長期借入金	650	617
未払法人税等	1,068	2,241
繰延税金負債	0	0
商品券	19,716	19,218
賞与引当金	4,299	3,242
資産除去債務	1,264	1,478
その他	29,370	28,709
流動負債合計	88,891	84,304
固定負債		
社債	34	17
長期借入金	41,557	41,493
繰延税金負債	10,546	8,456
再評価に係る繰延税金負債	310	310
退職給付引当金	15,456	15,540
役員退職慰労引当金	150	161
商品券等回収引当金	1,742	1,769
長期末払金	1,463	1,850
長期預り保証金	5,870	5,781
資産除去債務	224	235
その他	128	202
固定負債合計	77,484	75,817
負債合計	166,375	160,121
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	48,257	48,258
利益剰余金	95,258	97,049
自己株式	△118	△123
株主資本合計	161,194	162,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,619	3,163
土地再評価差額金	81	81
為替換算調整勘定	△564	△563
その他の包括利益累計額合計	6,136	2,681
新株予約権	341	341
少数株主持分	1,182	1,214
純資産合計	168,854	167,219
負債純資産合計	335,230	327,340

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	236,382	236,185
売上原価	170,868	171,792
売上総利益	65,513	64,392
販売費及び一般管理費	61,853	62,229
営業利益	3,660	2,162
営業外収益		
受取利息	41	36
受取配当金	549	547
諸債務整理益	650	673
その他	422	411
営業外収益合計	1,664	1,670
営業外費用		
支払利息	187	201
商品券等回収引当金繰入額	488	523
その他	809	345
営業外費用合計	1,484	1,070
経常利益	3,840	2,762
特別利益		
受取補償金	—	6,000
固定資産売却益	—	142
段階取得に係る差益	260	—
特別利益合計	260	6,142
特別損失		
店舗閉鎖損失	—	1,440
新店舗開業費用	—	936
固定資産除却損	100	761
人事制度改編に伴う一時費用	5,282	—
店舗建替関連損失	280	—
投資有価証券評価損	271	—
特別損失合計	5,933	3,138
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,832	5,766
法人税、住民税及び事業税	547	2,320
法人税等調整額	△1,141	409
法人税等合計	△594	2,729
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,237	3,036
少数株主利益	0	32
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,237	3,004

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△1,237	3,036
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,280	△3,456
為替換算調整勘定	46	1
その他の包括利益合計	1,326	△3,455
四半期包括利益	88	△418
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	88	△449
少数株主に係る四半期包括利益	0	31

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,832	5,766
減価償却費	5,953	5,618
店舗閉鎖損失	—	1,197
店舗建替関連損失	280	—
のれん償却額	537	617
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△17	31
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,479	△1,058
退職給付引当金の増減額(△は減少)	306	78
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	8	10
商品券等回収引当金の増減額(△は減少)	△81	27
人事制度改編費用引当金の増減額(△は減少)	5,181	—
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△349	—
受取利息及び受取配当金	△591	△584
支払利息	187	201
持分法による投資損益(△は益)	91	44
固定資産売却損益(△は益)	—	△142
固定資産除却損	100	761
有価証券及び投資有価証券評価損益(△は益)	271	—
段階取得に係る差損益(△は益)	△260	—
売上債権の増減額(△は増加)	2,255	1,797
たな卸資産の増減額(△は増加)	237	471
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,472	△3,811
未払消費税等の増減額(△は減少)	542	△942
その他	364	△99
小計	7,232	9,986
利息及び配当金の受取額	335	559
利息の支払額	△187	△201
法人税等の支払額	△1,388	△1,070
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,992	9,274

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	10,034	△0
有形固定資産の取得による支出	△14,788	△8,331
有形固定資産の売却による収入	—	914
無形固定資産の取得による支出	△1,204	△828
資産除去債務の履行による支出	△117	△314
投資有価証券の取得による支出	△4	△506
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	2	140
長期貸付けによる支出	—	△2
長期貸付金の回収による収入	81	86
差入保証金の差入による支出	△31	△178
差入保証金の回収による収入	593	1,401
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△4,503	△39
その他	△1	144
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△9,940</b>	<b>△7,514</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,842	△40
長期借入金の返済による支出	△249	△331
社債の償還による支出	△20,000	△17
自己株式の売却による収入	—	0
自己株式の取得による支出	△2	△4
配当金の支払額	△1,289	△1,213
少数株主への配当金の支払額	—	△9
その他	△30	△156
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△13,729</b>	<b>△1,772</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	46	△0
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>△17,631</b>	<b>△13</b>
現金及び現金同等物の期首残高	32,125	17,770
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>14,494</b>	<b>17,756</b>

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	176,068	45,340	6,289	8,684	236,382	—	236,382
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	103	2,157	1,919	7,386	11,566	△11,566	—
計	176,171	47,497	8,208	16,071	247,949	△11,566	236,382
セグメント利益	1,952	681	799	785	4,219	△558	3,660

(注) 1. セグメント利益の調整額△558百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

エブリデイ・ドット・コム株式(現阪急オレンジライフ株式)の追加取得による同社の子会社化に伴い、「その他事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間よりのれんを計上しております。また、家族亭株式の公開買付けによる同社の子会社化に伴い、「その他事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間よりのれんを計上しております。これらの事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては2,616百万円であります。

なお、家族亭ののれんの金額は取得原価の配分が完了していないため暫定的に算定された金額であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	スーパー マーケット 事業	PM事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	166,508	45,758	6,475	17,442	236,185	—	236,185
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	137	2,116	1,957	7,407	11,618	△11,618	—
計	166,645	47,875	8,432	24,849	247,803	△11,618	236,185
セグメント利益	680	701	819	387	2,588	△425	2,162

(注) 1. セグメント利益の調整額△425百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

本年11月の阪急うめだ本店のグランドオープンにあわせ、スポーツ用品売場、ベビー・子供服売場が本店へ移設されるため、阪急百貨店インクス館の閉店を決定しました。これらに伴い、「百貨店事業」セグメントにおいて、減損損失を認識いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては763百万円であり、特別損失の店舗閉鎖損失に含めて表示しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。